

就職支援

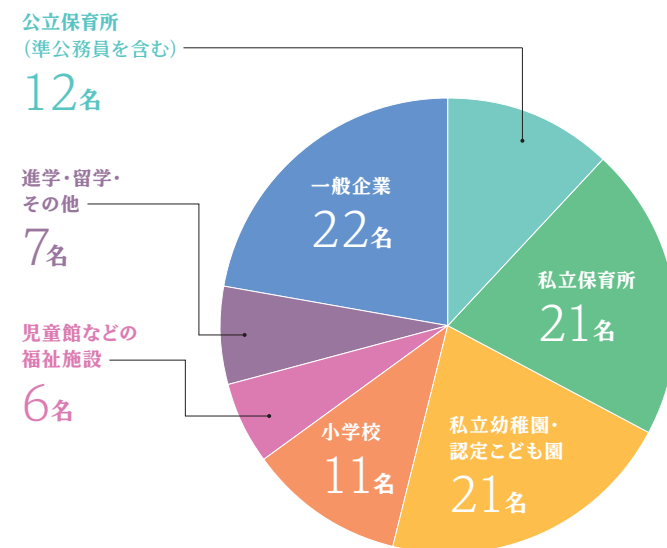
4年間の学びの先、保育職・教育職・福祉職として活躍するためには就職活動も大切です。
幼児教育学科では教職センター事務課、学内で就職指導を行うキャリアセンター支援課と連携してあなたをサポートします。

幼児教育学科の就職支援

入学後、日々学びや実習を積み重ねながら「理想の保育者像」を思い描いていきます。その理想に近づくための就職活動は一般企業とは少し異なります。1年次から卒業生の講話を聞くことで理想への道をイメージしていきます。教職相談員による就職相談、小論文・エントリーシート講座や面接対策を受けることで、一步一步、夢の実現に近づいていきます。

1年次	保育所、幼稚園、小学校、児童福祉施設などに就職した卒業生による講話	公務員保育士の模擬試験	教職相談員 (平日は毎日、就職相談が可能)
2年次	保育士、幼稚園教諭、保育教諭、児童福祉施設職員などによる講話		
3年次	保育士、幼稚園教諭、保育教諭、児童福祉施設職員などによる就職説明会		
4年次	学科教員による就職対策 (小論文、エントリーシート、面接対策など)		

2024年度卒業生実績



2024年度卒業生100名

保育職・小学校教員
就職希望者の就職率

100%

(保育職…保育所・幼稚園・認定こども園・児童館などの施設)



学科教員や教職センター事務課、教職相談員による就職支援、公務員保育士対策講座などを実施しています。

卒業後の支援(リカレント教育)



シンポジウム／ワークショップ
保育・幼児教育の現代的な課題や、人間が生きることについて問い直すことに関するテーマでのシンポジウムや、日々の子どもの豊かな経験につながるようなワークショップを行っています。



研修会
保育職・教育職・福祉職を中心として、卒業生が実践を共に語り合い考え合う研修会を行っています。日々の喜びや悩みを話し合いながら、卒業生同士がつながりをもてる機会です。

交通アクセス・お問い合わせ

武蔵野キャンパスへのアクセス | JR・京王井の頭線吉祥寺駅よりバス約15分 / JR三鷹駅よりバス約10分 / JR武蔵境駅よりバス約7分

武蔵野キャンパス | 〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番20号

入試に関するお問い合わせ

武蔵野大学入試センター

TEL: 03-5530-7300 Mail: nyushi@musashino-u.ac.jp

HP: <https://www.musashino-u.ac.jp/>

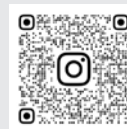
武蔵野大学
HP



幼児教育学科
HP



幼児教育学科
Instagram



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学 教育学部

Musashino University Faculty of Education
Department of Early Childhood Education and Care

幼児教育学科



本物に触れること 真剣に遊ぶことを通して 人や世界の豊かさに出会う

乳幼児期は生きる根っこが育まれるとても大切な時期です。
子どもたちの生きている世界は、不思議と驚きに満ちています。
様々なものに出会い、感じたことの全てが、
いまと未来をしあわせに生きることに繋がります。

幼児教育学科の特徴

1 人間学としての幼児教育を学び、 人を深く見つめることができる保育者に

今日では子どもをめぐる様々な問題や課題があります。こうした状況は、「人が生きるとは何か」ということを、現在を生きる私たちに改めて問いかけているようでもあります。本学科では、人が生きることを深く問い、学ぶことを基盤としながら人を深く見つめる哲学と、確かな実践力を備えた保育者を育成します。

2 保育インターンシップや保育・教育海外研修で 視野を広げ、人間性を高める

「保育インターンシップ」「保育・教育海外研修」など学外での実践的な学びを通して保育の多様な考え方や価値観を学んだり、世界の多文化への理解を深めることで、自分たちが大切にしていきたい保育観を、実感を通して見出します。

3 学生一人ひとりの顔が見える 4年間を通した「ゼミ&実習&幼児教育プロジェクト」 による重層的な学習

1・2年次は25人規模の「入門ゼミ」「基礎ゼミ」、3・4年次は10人規模の「発展ゼミ」「総合ゼミ」で、保育・幼児教育の基礎から専門までを丁寧に学びます。また実習前後には教員との個別面談があり、サポートを受けながら理論と実践を往還的に積み重ねていきます。学年横断型の「幼児教育プロジェクト」では、リーダー的な役割を担う保育者に必要な力を育成します。ゼミ、実習、幼児教育プロジェクトを通して将来に向けての各自の問題意識と保育観を醸成します。

4 SDGsへの取り組み

世界の幸せを考え、2050年に向けてウェルビーイングクリエーターを社会に送り出すことを目標としている武蔵野大学では、1年次に全学共通の科目である「SDGs基礎」と「SDGs発展」を履修します。これらの科目での学びは幼児教育学科の「本物に触れること」にも関連するとともに、広い視野で物事をとらえる保育者としての資質・能力の育成につながります。それぞれの授業でも、次世代に残したいものについて考えていきます。

将来のイメージ

保育所保育士 | 幼稚園教諭 | 幼保連携型認定こども園保育教諭 | 小学校教諭 | 児童福祉施設保育士 | 教育機関・施設指導員 | 社会福祉主事 | 司書教諭 | 公務員(一般行政職・福祉職) | 一般企業 | 大学院進学など

目指す資格・免許

保育士資格 | 幼稚園教諭一種免許状 | 小学校教諭一種免許状(オプション *条件・選考があります) | 社会福祉主事任用資格 | 司書教諭資格(オプション) | 児童指導員任用資格

人間学としての幼児教育を！

幼児教育を学ぶということは人間について学ぶことです。

人間とは何か、人間とはどういった存在か、

人間はなぜ・いつ・どのように発達するのか、

あるいは人が人に関わるとはどういったことなのか、

そういった根本的な問いを問うこと、

深く考えることから幼児教育の学びがはじまります。

そのためには様々な視点から総合的に学ぼうとすること、

素朴な疑問を手放すことなく持ち続けることが大切です。

幼児教育学科ではそうした素朴で根本的な問いを

大切にしながら学ぶことができます。

ぜひ、子どもについて、人について、

一緒に考えていきましょう。

幼児教育・保育

理論と実践を通して学ぶ

保育原理 | 教育原理1 | 教育原理2(教育哲学) | 教職論

乳児保育 | 保育内容指導法 | 児童文化 | 仏教保育論

国際保育論 | 保育内容(健康) | 保育内容(表現)

保幼小接続論 | 保育インターンシップなど

幼児教育学科での 学際的な学び

心理・福祉・保健

他者と自己に丁寧に 向き合い寄り添う

発達心理学 | 教育心理学 | 社会福祉 | 社会的養護

子ども家庭福祉 | 特別支援教育 / 障害児保育

幼児理解と教育相談 | 病児保育論 | 子どもの保健

児童心理臨床 | 地域ネットワーク論など

表現・アート・音楽

繊細な感受性が

これからの世界を開く

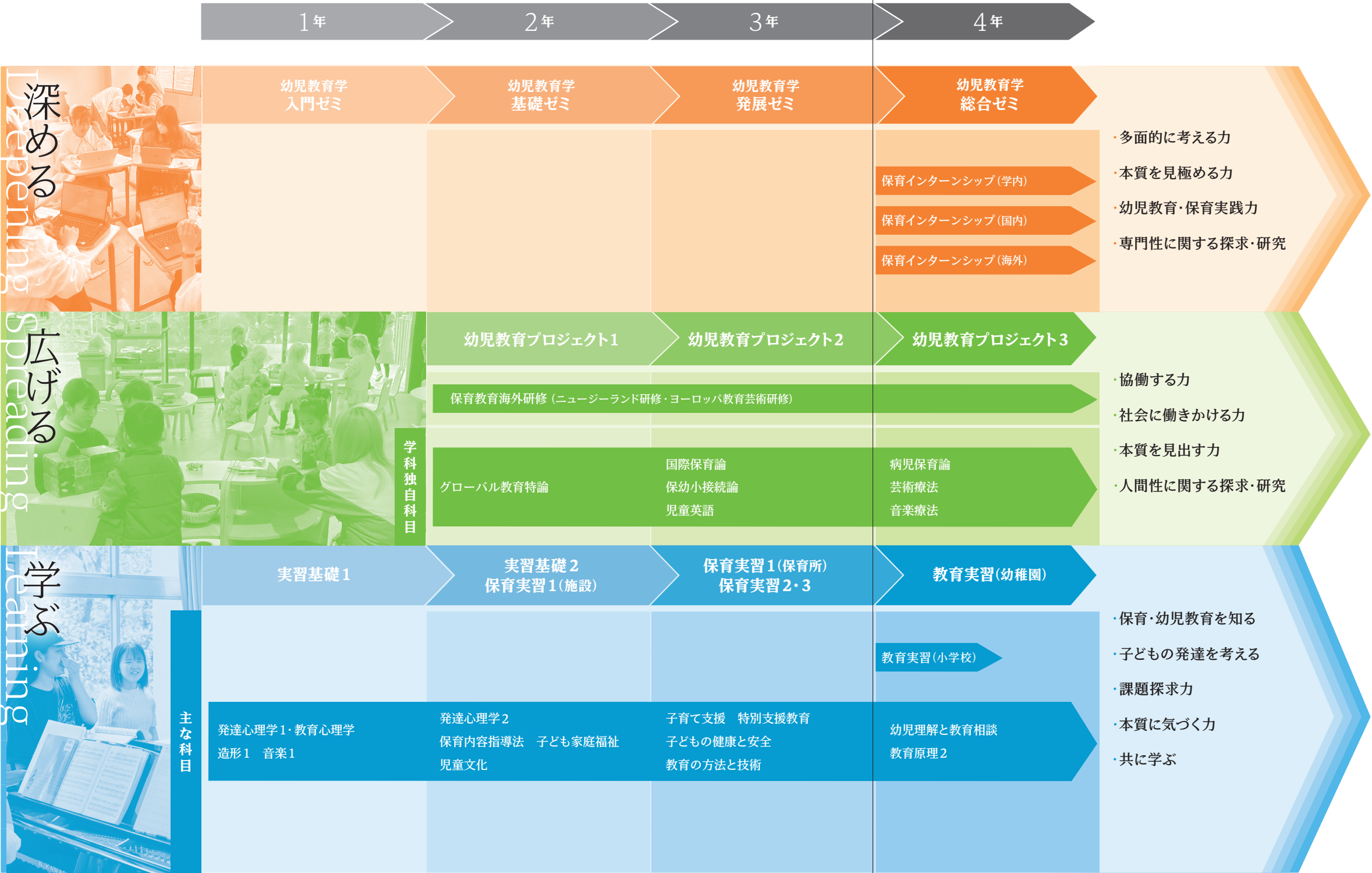
造形1 | 造形2 | 造形3 | 造形4 | 芸術療法

音楽1 | 音楽2 | 音楽表現 | 音楽療法

身体表現1 | 身体表現2など

「育てられる人」から「育てる人」へ
じっくり学び成長できる4年間

幼児教育および幼児教育に関連した幅広い分野について、1年生から4年生まで学年を重ねるごとに、入門から基礎、応用と実践まで、より広く、より深く積み上げながらじっくりと学んでいきます。
1年生からキャンパス内の附属幼稚園での実習(実習基礎1)があり、どの学年においても、実際の子どもの姿や保育をイメージしながら、往還的に学びを体得していくことができます。地域との連携や、海外の幼児教育について学べる授業や研修も充実しています。



*幼児教育学科で履修できる科目の一部を紹介しています。

他学年と交流できる学科行事



新入生オリエンテーション



実習報告会



表現発表会



先輩からの就職活動報告会



卒業論文・卒業制作発表会



卒業後



子どもとの触れ合いを通して 保育・幼児教育の実践力を養う4年間

教室以外の場所で授業を行うこともあり、緑豊かなキャンパスすべてが学びの場です。
幼児教育学科ではこの環境を活かし、実践力を養う場を数多く設けています。
大学附属園として附属幼稚園と附属有明こども園があり、1年次から乳幼児と触れ合う機会が多いのも本学の特徴です。



関連施設



武蔵野大学附属幼稚園



武蔵野大学附属有明こども園



学内の子育て支援室

実践力を磨く環境

1年 講義と演習を通して基礎力を

1年次の学びは、教育の基本理念と演習からスタートします。発達心理学、保育原理等の講義科目や、子どもたちの創造性を刺激する造形や音楽表現などの多彩な演習授業を通して、学びの基礎を築きます。知ることと感ずること、どちらも大切にしています。



Pick Up 授業 | 発達心理学



Pick Up 授業 | 造形

2年 専門科目を通して応用力を

2年次には、児童文化など保育技術の実践的な習得に加え、身体表現の授業では実際に手や体、頭を存分に動かして、グループワーク等を通じて多彩で豊かな表現方法を学びます。保育内容指導法の授業では授業計画を立てる経験を積むなど、応用できる力も養います。



Pick Up 授業 | 児童文化



Pick Up 授業 | 身体表現

3年 学外実習と学内授業との往還的な学び ゼミで深める専門性

3年次には、より専門的な知識と技術に焦点を当て、教育の方法と技術など、学びを自ら創り出す力を培います。保育所実習等の学外実習に加えて、特別支援教育や保幼小接続論、器楽などの専門的な科目も増え、将来のキャリアに直結する実践的なスキルと知識が身につく時期です。



Pick Up 授業 | 教育の方法と技術



Pick Up 授業 | 器楽

4年 卒業研究・卒業制作にむけての探究 学びの集大成

最終学年では、これまでの学びを生かし、個々の関心やキャリア目標に応じて実社会で活躍できる人をめざして、それぞれの学びを積み重ねます。教育実習に加え、卒業研究として卒業論文・卒業制作にも取り組みます。専門性とともに人間性も磨かれる年となります。



Pick Up 授業 | 教育実習



Pick Up 授業 | 卒業研究

実践力を磨き、 広い視野で学べる多彩な授業

学内や学外でも学びを広げる場が豊富にあります。

学外の人との地域貢献活動、海外の保育について実践的に学ぶ研修、
国際保育論や病児保育論など本学ならではの多彩な独自科目が学生の好奇心を引き出します。



造形ワークショップ



2歳児との触れ合い



地域の子育て支援施設での遊び場づくり



子育て支援室おもちゃ遊び

地域や世界に広がる学びのフィールド

子育て支援

子どもも大人も幸せを感じられることを願い、大学内の子育て支援室にて、地域の様々な乳幼児や要支援児と保護者を対象に「ひろば」やワークショップを企画・開催。専門科目の授業の一環として、親子と直接かかわりながら保護者が子育てに自信を持てるような支援の基礎を培います。



子育て支援室 親子との交流



4号館前の池で親子と散歩

保育インターンシップ

4年次の職業体験として、保育インターンシップ(学内／国内／海外)では学内の子育て支援室、地域の子育て支援施設やインターナショナルスクール等、さらにはドイツ・デュッセルドルフにある幼稚園を学びの場を選ぶこともできます。実習生とは異なる立場で、社会背景も含めて深く学びます。



なないろひろば 子どもと語らう



ドイツ・デュッセルドルフ日独幼稚園の保育室

幼児教育プロジェクト

2～4年の学年合同で、課題探求型のプロジェクト学修を行う幼児教育学科の特別科目。附属幼稚園の園児との自然・アート活動、学生同士の学び合いを重視した活動や宿泊研修、地域の公共施設でのワークショップの企画運営等、他の授業では体験できない創造的な学びが満載です。



関東近郊での夏期宿泊研修



地域の親子向けのワークショップの企画と運営

海外研修

保育・教育海外研修(2～4年次)では、実習や保育・教育施設の訪問を通して生活や文化に触れ、国際的な視野から保育を実践的に学びます。ヨーロッパ芸術・保育研修では、歴史ある街並みの中で世界の芸術と保育に出会い、子どもたちが生活や保育の中で芸術に親しみながら育つ環境と文化についても理解を深めます。



ニュージーランドの保育室



ヨーロッパの美術館・歴史建造物見学

*訪問する国やプログラムは年度によって異なります。

仲間や教員と共に、 専門性を高める少人数のゼミナール

1・2年次ゼミでの学びを基礎に、3・4年次は少人数の様々な専門領域のゼミの中から、関心領域のゼミの所属し研究を進めることによって、保育者としての専門性を高めます。ゼミにおける学生同士の学び合いは、社会に出たときのミドルリーダーとなる力や対応力を培うにつながります。卒業後に大学院へ進学することで、さらに研究を究める道も開かれます。



遊び・保育環境ゼミ

子どもが遊ぶとはどういうことなのか。また、どのように子どもは遊び、遊びを通して何を経験しているのか。遊びや生活を生み出す保育環境とはどのようなものなのか。保育環境を通した子どもの遊びと生活について探究しています。



箕輪 潤子
教授 [学科長]

造形教育・教育哲学ゼミ

人はなぜ表現するのか。子どもにとって表現はどんな意味があるのか、あるいは保育や教育とはいったい何か。そうした原理的な問題を理論と実践を両輪に考察しています。子ども向けのアートワークショップや哲学対話の実践も行います。



生井 亮司
教授

身体教育・身体表現ゼミ

子どもたちにどのような身体の体験をしてほしいか。子ども向けの体操を創作したり、身体を動かして遊ぶワークショップを企画したりします。また、保育者・教育者に必要な身体または身体感覚とは何か、身体で築かれる関係性について考えます。



川上 暁子
准教授



音楽教育ゼミ

音楽教育学の一つの要素であるリトミックを体験し、子どもたちの音楽やリズムの捉え方や身体的な影響などを考察します。さらに音やリズムを楽しむリトミックを保育者が子どもたちにどのように提供し、子どもたちの表現力を導き出せるかを検討します。



高牧 恵里
准教授

子ども社会学・国際保育ゼミ

社会学的な思考を取り入れながら、グローバルな視点で保育について考えます。キーワードは「知的好奇心」。学外フィールドワーク、親子向けワークショップの企画・実施の体験や、多文化理解についての対話などを通してアクティブに学んでいきます。



松田 こずえ
准教授

保育実践研究ゼミ

保育教材として活用されている児童文化財を中心に教材研究をします。専門科目での学修を基盤として、乳幼児の姿を想定しながら教材を作成し、実践方法を検討します。また、心と体を動かし子どもと遊ぶ場で学外活動を行い、遊びを支える保育者の役割を考えます。



小川 房子
准教授

インクルーシブ保育・子育て支援ゼミ

子どもたちがどのようなことを感じながら遊び生活しているのか、子どもも保護者も学生も保育者も育ち合う保育や子育ての場をどう創っていくか。附属園の観察、子育て支援室等でのワークショップ企画実践などを通して「育ち合う場」を探求します。



義永 睦子
教授



発達心理学・教育心理学・発達支援ゼミ

乳幼児の心と行動が「いつ」「どのように」「どのような環境と相互作用しながら」発達するのかを、科学的な視点から探究し、保育・教育を専門的に考える態度と実践力を養います。文献購読、保育所や幼稚園でのフィールドワーク、親子ワークショップ、おもちゃ・絵本作成などを通して学習します。



今福 理博
准教授

他者理解ゼミ

「他者」を理解するとはどのようなことなのか。どのようにすれば他者に寄り添えるのか。現場ではどのように実践しているのか。保育・教育・福祉などの場で人と関わるための「他者理解」を、ゼミ生みんなで探究していきます。



野島 正剛
教授

公衆衛生・親子保健ゼミ

公衆衛生とはみんなの健康づくり。その中で、親子保健は、親子を対象に、妊娠・出産・育児の切れ目ない支援や健康づくりについて考え、子どもの健やかな成長・発達を目指します。ゼミでは、「子どもの健康」を様々な角度から考察します。



峰 友紗
准教授



在学生・卒業生の声



幼児教育学科2年
清藤 さん

私は入学する前、「子どもと関われる仕事がしたい」という、とてもふんわりとした将来の目標しか持っていなかったのですが、そんな自分がこの学科に入って良いのかと悩んでいました。

ですが、いざ入学してみると、武蔵野大学幼児教育学科では、1年次から附属幼稚園の子どもたちと関わる機会が沢山あったり、幼稚園や保育園、施設に勤務する方の話を聞く機会が設けられていたり、将来の展望を明確化することができるカリキュラムが豊富に揃っていて、今では入学して良かったと心から思っています。

目標がふわっとしていてもいいんです!是非皆さんも後悔の無い選択をしてください!



幼児教育学科3年
立花 さん

武蔵野大学幼児教育学科では、1年生から附属園での実習が始まり、子どもたちとふれ合いながら実践的に学ぶことができます。私は2年生の夏にニュージーランドでの保育研修に参加し、海外の保育に触れる貴重な体験を得ることができました。また、学生アドバイザーとして新入生のオリエンテーションにも携わり、多くの人とのつながりの中で、自身の成長を実感しています。先生方は学生一人ひとりに丁寧に寄り添い、親身になって支えてくださるため、安心して学びに取り組める環境が整っています。これからも様々なことに挑戦し、よりよい保育者を目指して学びを深めていきたいです。



幼児教育学科4年
杉本 さん

武蔵野大学の幼児教育学科は授業や実習で4年間を通して子どもたちと関わりながら学べるのが魅力である。附属幼稚園があるため、1年次から授業で子どもたちと関わることができ、実習時に必要な日誌の書き方なども段階を踏んで学んでいくことができます。また、保育インターンシップや保育海外研修などの特色のある科目を通して、様々な保育現場を見学することができます。実際に海外の子どもたちと関わる経験をするにより、多角的な視点から学ぶことができました。このような充実したカリキュラムと多様な実習経験を通じて、保育や子どもについて理解を深めることができました。

*学年・勤務先は、2025年5月時点のものです



海外保育施設勤務
2008年度卒業
館下 さん

私が武蔵野大学の幼児教育学科に入学を決めた大きな理由は、幼児教育を学びながら特に親子関係の心理とケアを重点的に学びたかったからです。実際に入学すると、座学で知識を学ぶだけではなく、音楽や美術・造形、身体表現などそれぞれの分野の専門家の先生方から実技で学ぶことができました。大学敷地内には附属幼稚園があったり、周辺には幼稚園入園前の親子に向けた自由来所型の施設などもありました。在学中は実習をはじめ、施設見学や保育所でのアルバイトや小児科病棟でのボランティアを通して子どもたちやその保護者と関わる経験をしました。

プライベートでは学友たちとフットサルを楽しんだりしたことが今でも懐かしい思い出です。大学の図書館の幼児教育コーナーで過ごすのもお気に入りの時間でした。

大学卒業と同時に保育士と幼稚園教諭一種の免許を取得し新卒でドイツにある日独園で働き始めました。子どもも教員も日本人とドイツ人が半数ずつ在籍している市立のバイリンガル幼稚園です。慣れない海外での暮らし、子育てに奮闘する家族に寄り添いながら、子どもの成長を保護者と共に支えていく私のスタンスは、大学在学中の様々な経験と学びが基礎となっています。



区役所 障害福祉課勤務
2013年度卒業
木崎 さん

高校生の頃から「保育士になりたい」と将来の夢を持ちはじめ、武蔵野大学教育学部に入学しました。

保育実習(施設)で障害児の入所施設で実習したことを通して、障害児と関わることの楽しさや充実感を知り、障害分野の仕事に興味を持ち始めました。保育園や幼稚園などに就職する仲間が多い中で、他の道に進むことに不安も感じている自分に、当時の先生方は親身になって相談ののってくださいました。当時お世話になった先生方とは、今でも大学を訪問し、近況報告をさせてもらうなど、大学卒業後もつながることができています。

現在は公務員の福祉職として、区役所の障害福祉に携わる部署で働いています。具体的には、研修の運営や、大学生に向けた区内施設見学など、様々な人材確保事業を企画・運営する仕事をしています。障害分野で働く人達と直接やりとりする中で、大学時代に経験できた「人とかかわり」が活きていると感じています。



私立認定こども園勤務
2020年度卒業
小林 さん

私は保育士を目指して武蔵野大学に入学しました。武蔵野大学の授業では、実際に体を動かしたり、附属幼稚園で子どもと関わったりすることで、理論と実践を結びつけながら学ぶことができました。大学1年次に初めて附属幼稚園の実習で3歳児に出会ったとき、「この小さい命を守り、育てなければいけない」と、自分の中に保育者として大切な思いが芽生えたことを今でも覚えています。大学での4年間、保育について学べば学ぶほど、より深く学びたいと考えるようになり、私は卒業後の進路として大学院を選びました。

大学院の授業は、他者との対話が中心でした。子どもも遊びの中でさまざまな人と(時には物とも)対話しながら多くのことを学んでいきます。これから保育者を目指す皆さんには、どうか様々な事柄について自分なりの考えをもち、それを身近な人に伝えてみてください。そうすることで、人や物と関わる楽しさを心から伝えられる保育者になれると思います!

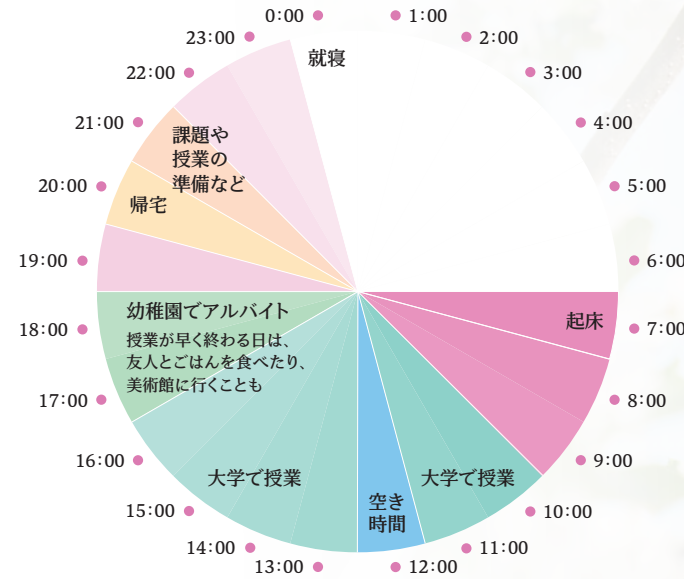
在学生の一日



幼児教育学科2年
奥戸 さん

空き時間にはレッスン室でピアノの練習をしたり、図書館で本を読んだり課題をしています。特に大学図書館は蔵書数が多く、様々なジャンルの本や雑誌を取り扱っているので1日いても飽きないです。時間を忘れて没頭できてしまうので、授業を忘れないようにだけ気を付けています。

放課後は大学附属の幼稚園でアルバイトをしています。実際に園児や保護者の方・園の先生と話す機会があることで授業だけでは得られない経験をしています。子どもたちと過ごすことで、気持ちや伝えられていることがわからず困ることもありますが、それを上回るほどの元気をもらっています。



幼児教育学科4年
西野 さん

私は週に2日ほど、午前中に自宅近くの保育園で働いています。お昼ごはんを食べた後はいったん帰宅し、授業の課題や大学の準備に取り組んでから、午後の授業を受けます。授業が終わった後は、ゼミ活動に参加したり、卒業研究のために本や論文を読んだりしています。授業のない日には、就職活動の一環として保育園や幼稚園を見学したり、ピアノの練習や教材づくり(スケッチブックシアターやパネルシアターなど)をしています。実習や将来の保育の仕事に向けて、少しずつ準備を進めている毎日はとても充実しており、現場と学びの両方から多くのことを学んでいます。

